



リスクファクター Risk Factor

当社のリスク管理体制

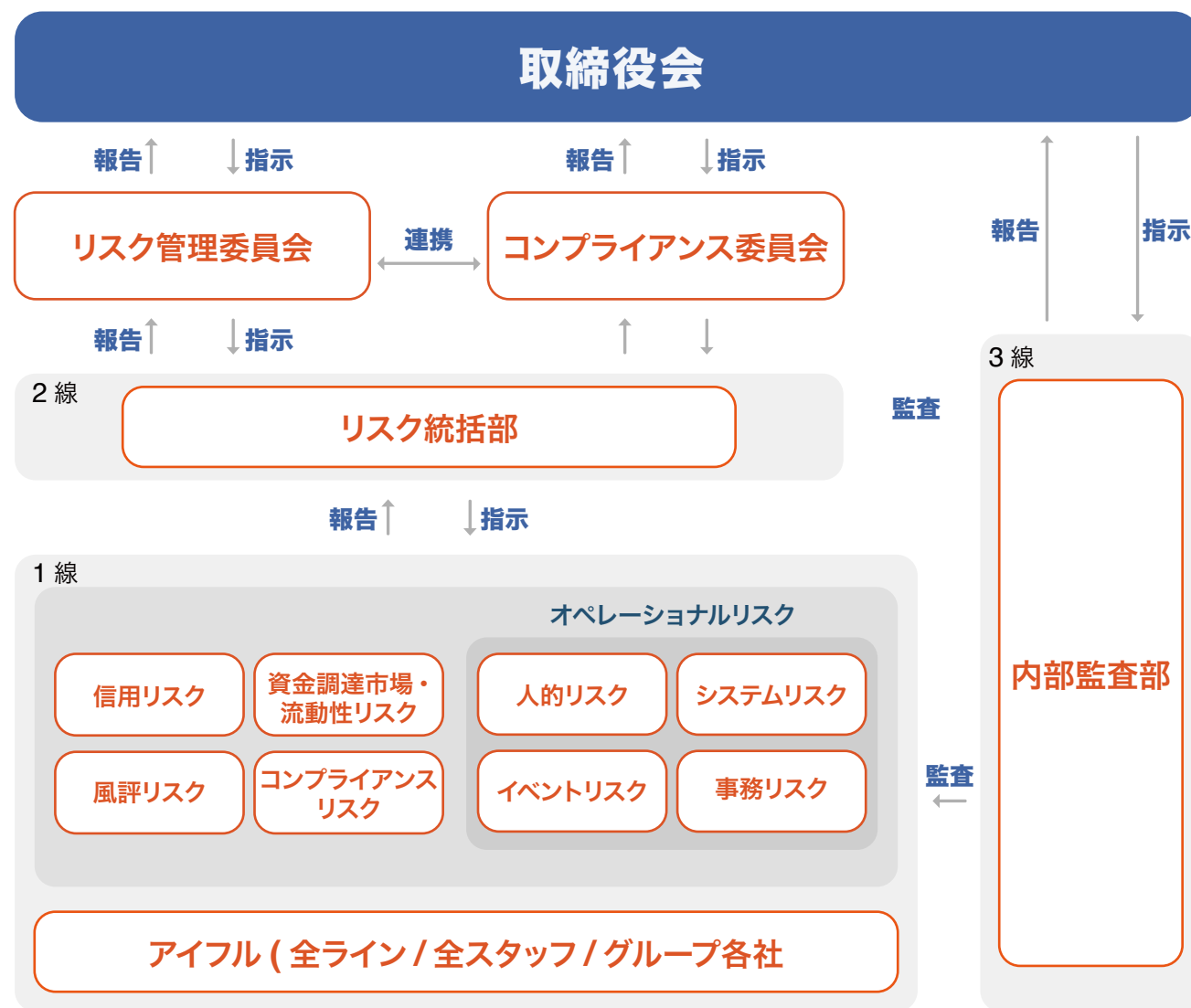
当社では2007年4月より、取締役会直属機関としてリスク管理委員会を設置し、各部署で発生するリスクないし企業活動を脅かすリスクを横断的に統括管理し、リスクの顕在化の未然防止及び危機発生時の体制整備をしております。

具体的には、「リスク管理規程」に基づき、各部署で継続的に収集したリスク情報をもとにリスクを算定・評価し、回避策・軽減策を検討しております。

リスク統括部において、各部署より報告を受けたリスク情報を一元管理しております。リスク管理委員会においては、リスクの定期的な把握及びリスク回避・軽減策の検討指示並びに危機時の陣頭指揮・各種対応指示などを行うとともに、リスク情報の収集、危機対策・対応などで、必要と判断した場合、対処方針・対処方法を策定し、取締役会にて承認を得ることとしております。

また、リスク情報のなかで、コンプライアンス委員会に関係する事案についてはコンプライアンス委員会に随時情報共有しております。

しかしながら、これらの対応にもかかわらず法的規制の強化もしくは緩和も含めた経営環境の変化、競合の状況、景気の変動等によっては当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があり、また、当社グループの戦略の見直しを余儀なくされる可能性があります。



- (注)
- 1 線…各業務執行部門は、実際にリスク管理を行い、リスク発生抑止の方針に従い、必要に応じてリスク管理計画を策定し、また、業務遂行におけるリスクを把握・評価を行い、回避・リスクテイクの判断、顕在化した際のリスクコントロールを迅速に実行する役割
 - 2 線…リスク統括部は、1 線のカテゴリ別主管業務に加え、統合的リスク管理部署として、1 線・カテゴリ別主管部署によるリスクコントロールの検証・指導・支援を行い、グループ全体のリスクガバナンス体制を構築する役割
 - 3 線…内部監査部は、体制及びプロセスの有効性や適切性を 1 線・2 線から独立した立場で検証する役割

トップリスク

当社は2025年3月期より、リスクシナリオの蓋然性と業務への影響度に基づき、事業に重要な影響を与える可能性があると経営が認識したリスクをトップリスクとして選定しております。トップリスクは毎期、リスク管理委員会において審議・決定され、トップリスクに対してはリスクの高まりや予兆等の評価を行い、必要な対策を講じることでリスクの抑制等を図ります。

リスク事象	リスクシナリオ
①法令違反や従業員等による不適切な行為に関するリスク	従業員等が法令、社会規範、商慣習・市場慣習、お客様目線等に照らして正しい行為を行わないこと（いわゆる、ミスコンダクト）により、行政処分や社会的批判など、ステークホルダーからの信頼を棄損するリスク
②競争力の低下リスク	既存競合先に加え、異業種からの新規参入、生活様式の変化、DX化の加速等から生じるお客様の期待変化に対して適切に対応ができない場合に、市場での競争力が低下するリスク
③貸倒関連費用の増加リスク	経済情勢の悪化による資金繰りの困窮によって、支払いが困難となるお客様が増加するリスク
④金利上昇リスク	市場環境の変動や政情不安等の地政学リスク等の影響により調達金利が上昇し、当社の経営成績に影響を及ぼすリスク
⑤資金流動性リスク	市場環境、当社の信用力低下や格付けの変動等により資金調達が困難になるリスク
⑥サイバー攻撃・システム障害リスク	人為的過誤、自然災害、停電、コンピュータウイルス、外部からのサイバー攻撃及びこれに類する事象により、事業影響が生じるリスク
⑦人材不足による事業計画への影響発生リスク	事業計画に見合った人員・人材を確保できず、事業計画、プロジェクトの遂行ができなくなるリスク

1 法令違反や従業員等による不適切な行為に関するリスク

当社グループは、業務を行うにあたっては貸金業法、割賦販売法をはじめ、多くの関連法令等の遵守のほか、お客様をはじめとする多くのステークホルダーとの良好な関係維持が求められていますが、従業員等による法令等に抵触する行為や、商慣習・市場慣習、お客様目線等に照らして正しい行為を行わないこと（いわゆる、ミスコンダクト）等があった場合は、行政処分や社会的批判など、ステークホルダーからの信頼が失われ、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、従業員等による法令の違反、不適切な行為の発生を抑制するべく、当社グループ全体において統一した企業倫理を共有し、当社グループ全体のコンプライアンス態勢を確立することを目的とした、グループコンプライアンス委員会を設置しております。また、内部統制機能として組織・制度を整備するとともに、システムによるオペレーショナルリスク対応を図り、上記体制図に記載の1線・2線・3線からなる、いわゆる3ラインによる点検と継続的な改善活動を図っております。

2 競争力の低下リスク

当社グループは、国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループを目指しておりますが、既存競合先に加え、異業種からの新規参入、生活様式の変化、DX化の加速等から生じるお客様の期待変化に対し、より迅速に対応することが求められており、これらに対して適切に対応ができない場合、市場における競争力が低下し、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

これらに対し当社は、市場動向やお客様の声の積極的な収集活動に努め、スマホアプリの改善等UI/UX向上の取り組み強化など、デジタル技術の利活用による利便性の向上、M&Aを含む事業の多角化や海外展開による事業ポートフォリオの分散に重点をおいてサービス拡大に取り組んでおります。

3 貸倒関連費用の増加リスク

当社グループは、営業貸付金等について貸倒関連費用を計上しておりますが、今後の経済情勢等により資金繰りの困窮によって支払いが困難となるお客様が増加するリスクがあり、当社グループの貸倒関連費用の増加や受取利息の減少につながることで、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

こうしたリスクを解消するため、お客様の信用力について定期的に調査を行うなど、予兆を即座に把握できる体制を構築し適切な対策を講じることで、債権の健全性維持に努めております。

4 金利上昇リスク

資金調達に係る調達金利は、市場環境等により変動することがあり、政情不安等の地政学リスクの影響も含め、将来における金利上昇の程度によっては、当社グループの資金調達に影響を及ぼすおそれがあり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

こうしたリスクを解消するため、当社グループでは、ALM（資産と負債の総合的な管理）による金利リスクの管理を行っており、将来の金利見通しやコストを踏まえた調達金利の固定化、調達手段の多様化等により、金利変動リスクの軽減を図っています。

5 資金流動性リスク

当社グループは、金融機関からの借入れ、社債、債権の流動化及びコマーシャル・ペーパー等により、資金調達を行っておりますが、市況環境、当社の信用力低下や格付の低下等の変動により資金調達が困難になる可能性があります。

また、資金調達に係る契約には財務制限条項や早期償還条項が付されているものが存在することから、当社グループの財政状態及び経営成績、又は営業貸付金等の債権内容が大きく変化し、期限の利益を喪失した場合には、資金繰りに影響を及ぼす可能性があります。

こうしたリスクを解消するため、当社グループではALMによる短期・長期の資金流動性の管理を行うとともに、財務制限条項や早期償還条項の管理・報告、調達の多様化や新たな調達手法の検討、格付の向上に向けた取り組みを行っております。

6 サイバー攻撃・システム障害リスク

当社グループが使用するハードウェア及びソフトウェアは、人為的過誤、コンピュータウイルス、外部からのサイバー攻撃及びこれに類する事象による損害又は中断等により、当社グループの事業に対する消費者の信頼が低下することで、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

こうしたリスクを解消するため、当社グループでは、基幹システムの冗長化、バックアップ体制整備等のインフラ強化を図るとともに、サイバー攻撃やフィッシングサイト等へのセキュリティ強化に向け、社内CSIRTによる業界内外の情報連携体制、コンピュータウイルスの排除、外部からのサイ

バー攻撃の監視、多角的な脆弱性診断等を継続しています。また、二段階認証の導入等具体的な対策や、定期的な社内対応訓練等を通じて、それらの被害抑止に努めております。

7 人材不足による事業計画への影響発生リスク

当社は、グループ全体における幅広い専門分野に対し、高い専門性を必要とする業務に従事している社員を雇用していることから、外部環境の変動により、人材不足による事業計画への影響を及ぼす可能性があります。

そのため、従業員等の積極的な採用や従業員等に対する継続的な研修等により、多様な人材の確保・育成を行っており、有能な人材を継続的に採用し定着を図るよう努めております。その他、タレントマネジメントシステムの積極活用による採用・配置・評価の最適化、組織・職位への要件明確化による有効な人材育成、従業員満足度の向上に向けた社内ロイヤリティの継続的な向上などの施策を実施してまいります。

トップリスク以外のリスク

8 有価証券保有に関するリスク

当社グループは、お客様の需要にあわせた商品やサービスを提供するために、子会社及び関連会社に係る投資有価証券を保有することで、ローン事業（消費者金融事業及び事業者金融事業）、信販事業、保証事業、海外事業等、金融事業の多角化を図っております。しかしながら、子会社等の不採算が想定より長引くことにより投資有価証券について減損に至るおそれがある場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

9 代表取締役及びその親族等の当社株式保有並びに処分に関するリスク

当事業年度末現在、当社の代表取締役である福田光秀及びその創業者一族は、関連法人と併せて当社の発行済株式の約40%を実質的に保有する株主となっております。その結果として、当社の支配権の譲渡、事業の再編及び再構築、他の事業及び資産への投資、並びに将来の資金調達等の重要な企業取引を含む当社の事業活動に影響を及ぼす重要な意思決定に対して影響力を行使することができます。

また、これらの株主は、現在までのところ安定保有を維持しておりますが、今後、その所有株式の一部を処分した場合、市場における当社株式の供給が増加することにより、当社の株価に影響を及ぼす可能性があります。

10 災害・感染症等に関するリスク

大規模な地震、津波、風水害等の自然災害、感染症の流行や紛争等の外的要因による非常事態によって、当社グループの事業継続に影響を及ぼす可能性があります。

こうしたリスクを解消するため、当社グループでは、事故・災害が発生した場合においても、ステークホルダーへの影響を最小化することを目的に、基幹システムの冗長化、データや電源のバックアップ、コールセンターのバックアップオフィスの整備及び災害備蓄体制の強化を図ると共に、事業継続計画に定めた対応を迅速に行うべく安否確認及び緊急時のコミュニケーションツールを導入し土日祝や早朝夜間であっても連絡を可能にするとともに、定期的なグループ横断の訓練を実施しております。

予想を超える災害等が発生し、世界レベルでの経済活動の停滞で大幅に事業活動が縮小又は停止するなど、通常どおりに設備が使用できなくなった場合において、お客様の需要に十分な対応が行き届かなくなる、あるいは、災害等に伴い被害を受けたお客様の状況悪化により、貸倒関連費用等が増加する場合は、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

11 気候変動のリスク

当社グループは、気候変動への対応を優先度の高い課題として認識しており、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言に従い、気候変動におけるリスク・機会の抽出とその対応策の検討を行っており、今後は、その内容に基づいて、当社グループとして課題の解決に取り組んでまいります。

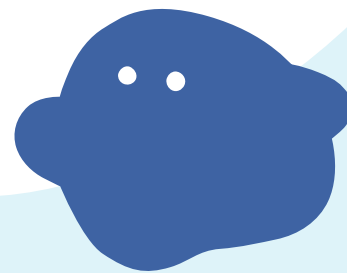
当社グループのリスク内容とリスク重要度の評価

リスク項目			指標	リスク内容	評価
分類	大分類	小分類			
移行リスク	政策法規制	炭素税の上昇、省エネ政策、GHG 排出規制、再エネ価格の上昇	支出	◦ インフラ稼働コストの増加	中
	評判	社会、投資家の評判変化	資本	◦ お客様からの支持低下 ◦ ステークホルダーの不安増大、評判悪化 ・ 人材確保の困難性上昇、従業員の定着率低下 ・ 資金調達の困難性上昇 ・ 株価の下落	中
物理的リスク	急性	台風、豪雨等による水害	支出 収益	◦ 公共交通機関の停止に伴う、従業員の出勤制限発生（お客様サービスレベルの低下） ◦ お客様罹災に伴う救済対象債権の増加 ◦ 自社グループ設備等の物理的被害（直接的業績影響）	中
	慢性	平均気温の上昇、降水・気象パターンの変動	支出 収益	◦ 夏季空調設備の運転コスト増加 ◦ 従業員の生産性低下、出勤制限、職場の快適性・安全性の劣化（お客様サービスレベルの低下）	中

当社グループのリスク対応策及び機会

リスク項目	リスク対応策	機会
炭素税の上昇、省エネ政策、GHG排出規制、再エネ価格の上昇	・ エネルギー使用量、CO2 削減目標の設定	・ 省エネ施策推進による事業活動コストの削減
社会、投資家の評判変化	・ 気候変動に関する取り組みの情報開示、投資家等への丁寧な説明	・ お客様、株式・債券市場等からの適正な評価
台風、豪雨等による水害	・ コンティンジェンシープランの更改 ・ お客様が罹災された場合の相談窓口等の支援体制整備	・ BCP 対応策によるインフラ強化 ・ お客様サービスレベルの安定化
平均気温の上昇、降水・気象パターンの変動	・ 快適な職場環境の再構築	・ 職場環境の改善による生産性向上

コーポレートガバナンス Corporate Governance



基本的な考え方

当社グループは、「誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る」という経営理念のもと、コンプライアンスを前提とした企業活動を通じて経済社会の発展に貢献することで、各ステークホルダーをはじめ社会から信頼される企業となり、透明性・公正性・効率性を兼ね備えた企業経営を実現することをコーポレート・ガバナンスの重要な目的と認識しております。

当社はコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方に基づき、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定等を通じて、持続的な成長と中長期的企業価値の維持向上を図るべく、次のコーポレート・ガバナンスに関する基本方針に沿ってコーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでまいります。

1. 株主様の権利を尊重し、また株主様の平等性を確保する
2. 株主様を含む全てのステークホルダーの皆様との適切な協働に努める
3. 財務情報や非財務情報等の会社情報を適切に開示し、透明性を確保する
4. 取締役会は、株主様への受託者責任を踏まえ、取締役会による業務執行の監督機能の実効性を確保するなどの役割・責務を適切に果たす
5. 持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、株主様との建設的な対話を行う

社外取締役メッセージ

●当社のコーポレート・ガバナンス体制と コンプライアンスに対する評価・課題

会社全体のシステム化が進んでおり、あらゆる情報が見える形で収集される体制が整っています。また取締役会の直属諮問機関であるコンプライアンス委員会を定期的を開催し、社外有識者や社外取締役である私も出席する形で、コンプライアンスの実施状況等について確認を行っています。

M&Aの増加に伴いグループ会社も増えてきており、今後はグループ全体から見た業務執行の監督を強化していく必要があります。

●IRとマーケットの対話について

2024年5月に中期経営計画を公表しました。必要となる自己資本比率を踏まえ、成長投資と株主還元にどの程度資本を配分していくかという資本政策を示しています。

東京証券取引所が要請する「資本コストや株価を意識した経営の実現」を図るべく、投資家を含めたマーケットとの対話を本格化させています。短期的のみならず長期的な信頼を再構築できるように、将来を見据えたIR活動の実施を心掛けています。

社外取締役 監査等委員
前田真一郎

現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要

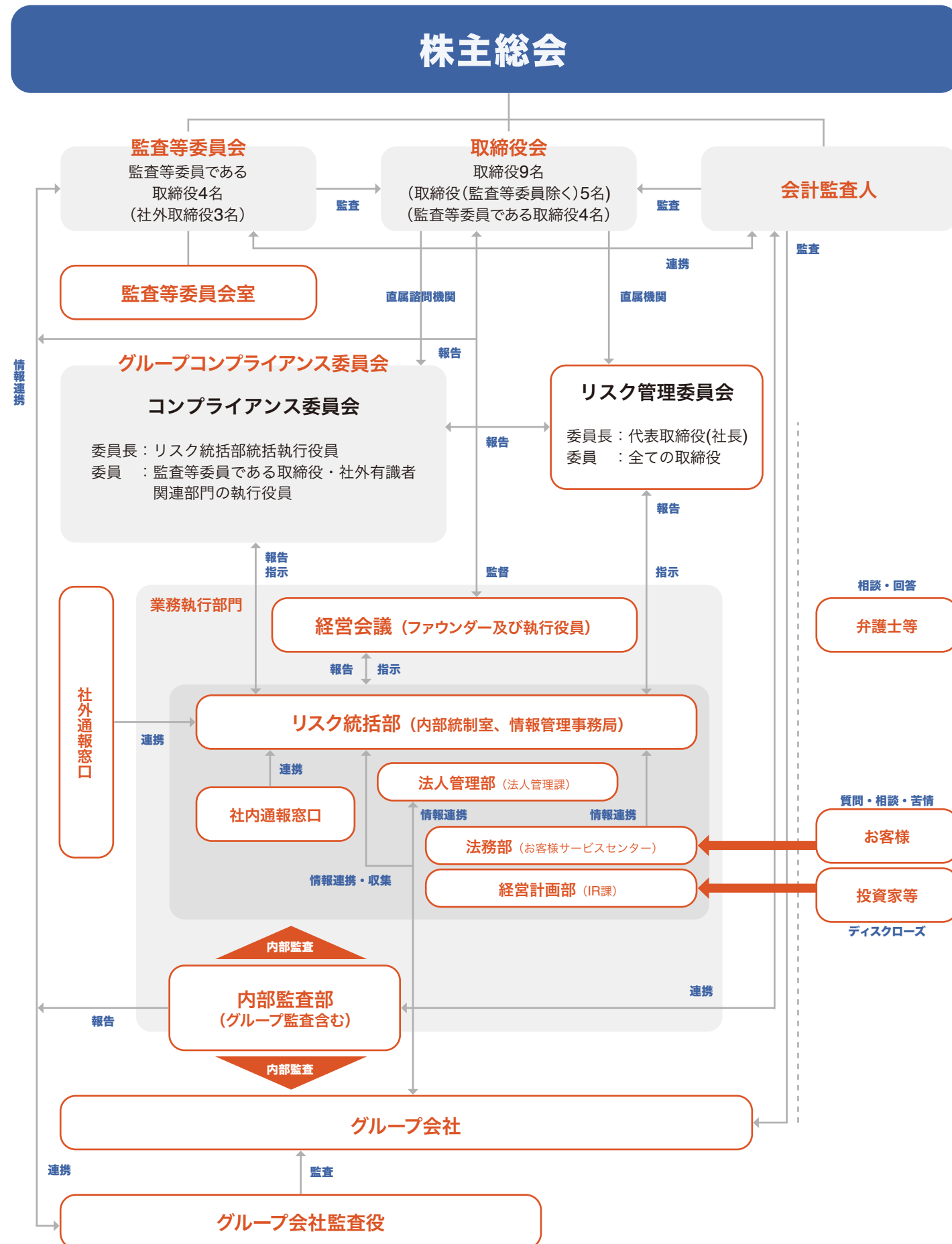
●監査等委員会および監査等委員である取締役

監査等委員会は、内部監査部門及び内部管理部門並びに会計監査人より、定期的に報告聴取・意見交換の場を設けることにより、経営監視機能の充実に努めるとともに、関係会社の監査役と情報共有を図ることで、企業集団としての監査体制を整えております。

●取締役会および取締役

また、取締役会は、取締役会で決議された方針に基づく業務執行、一定金額に満たない財産の処分等について、職務権限規程等に基づき執行役員等に適切な範囲で権限委譲し、その実施状況を監督しております。原則として月2回の開催とし、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。また、当社は取締役（監査等委員である取締役を除く。）を15名以内、監査等委員である取締役を5名以内とする旨を定款に定めております。

監査等委員である取締役4名のうち3名(有価証券報告書提出日現在)を社外取締役として選任しております。また、コンプライアンス委員会をはじめとする重要な会議・委員会等に出席し、意見を述べられる体制を整えております。



●各取締役が保有する主要なスキル・経験

氏名	地位 及び 担当	スキル・経験							
		企画 経営	法務 リスク管理	財務 会計	グローバル	人材開発	与信 マーケティング	IT デジタル DX	多様性
福田 光秀	代表取締役 社長執行役員	●	●	●	●	●	●	●	●
福田 吉孝	代表取締役 会長	●	●	●		●	●		
佐藤 正之	代表取締役 専務執行役員	●		●	●	●	●	●	
神代 顕彰	取締役 専務執行役員	●	●	●		●	●	●	●
増井 啓司	取締役 専務執行役員	●	●	●			●		
志村 仁	取締役 監査等委員（社外）		●	●	●				●
大川 馨一郎	取締役 監査等委員						●		
鈴木 治一	取締役 監査等委員（社外）		●						●
前田 真一郎	取締役 監査等委員（社外）		●	●	●				●

（注）
1. 「企業経営」の項目は当社及び他社において、業務執行取締役の経験が1年以上あることを表しています。
2. 「企業経営」以外の項目は、当社及び他社において、当該事業分野の部門長以上（又はそれに準ずる役職）の経験が1年以上あることを表しています。

●執行役員

意思決定と業務執行の迅速化及び監督機能と執行機能の分離強化を目的として、執行役員制度を導入しております。取締役会は執行役員を選任し、業務分掌及び権限を定め業務を委嘱しております。

●経営会議

全ての執行役員、及び、ファウンダーで構成され、取締役会承認事項の事前協議、及び、業務執行上の重要事項に関する協議または決議を行い、取締役会で決議された方針に基づく課題及び戦略等について情報連携及び相互牽制を図り、意思決定・業務執行に齟齬が生じないように努めております。原則として毎週開催しております。

●コンプライアンス委員会

取締役会の直属諮問機関として、コンプライアンス委員会を設置しております。リスク統括部統括執行役員を委員長とし、社外有識者、監査等委員である取締役及び関連部門の執行役員で構成され、コンプライアンス重視の企業風土作り・「企業倫理」の確立・コンプライアンスプログラムの推進等を目的としてコンプライアンスに係わる重要事項等の審議及び提言を実施し、必要に応じ取締役会への報告等を行っております。原則として年4回の開催とし、必要に応じて臨時委員会を開催しております。

●リスク管理委員会

取締役会の直属機関として、リスク管理委員会を設置しております。代表取締役社長を委員長とし、全ての取締役にて構成され、適正なリスク管理体制の構築によるリスクの未然防止および危機時の損失抑制を目的として定期的にリスク状況の報告を受けて常時リスク把握を行うとともにリスク管理体制の不断の見直しを実施し、取締役への報告等を行っております。原則として四半期毎の開催とし、必要に応じて臨時委員会を開催しております。

現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由

当社は監査等委員会設置会社を採用し、監査等委員である取締役4名のうち3名を社外取締役としております。監査等委員である取締役全員が取締役会に出席するほか、コンプライアンス委員会をはじめとする重要な会議・委員会等に出席し、また、監査等委員会への報告に関する体制を整備することで、監査の実効性および独立性を確保いたします。その他、監査等委員会の職務を補助すべき専属の機関として監査等委員会室を設置し監査の充実性を確保しております。

また、当社は、執行役員制度を導入し経営監督機能と業務執行機能の分離を図るとともに、社外有識者を委員とするコンプライアンス委員会およびリスク管理委員会等を設置し監督機能の強化を図っております。経営の透明性・公正性・効率性を兼ね備えた企業経営を実現すべく、現状の体制を採用しております。

役員報酬の内容

当社は、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めており、その内容は「誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る」という経営理念のもと、役割発揮に対する対価として機能させるほか、中長期的な会社業績向上及び企業価値拡大に対するインセンティブとして有効に機能させることを方針としております。

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は取締役会、監査等委員会であり、その内容として、経営環境及び業績の状況等を踏まえ、必要に応じて報酬体系・報酬水準の見直しを図ることとし、各人への配分は、役職ごとの役割の大きさ、各人の事務委嘱や職務の内容及び責任範囲に応じて決定しております。

当社の役員の報酬等に関する株主総会の決議年月日は2015年6月23日であり、決議の内容は、取締役（監査等委員である取締役を除く。）の報酬額が年額500百万円以内、監査等委員である取締役の報酬額が年額80百万円以内としております。

コンプライアンス態勢の推進

アイフルでは、「お客様第一主義」にならび、「コンプライアンスの徹底」を最重要項目として捉え、ステークホルダーの皆さまからのご期待にこたえ、社会からご支持をいただくためにコンプライアンス態勢の強化に向けた多様な取り組みを推進しています。

組織体制

コンプライアンス態勢の推進に向けた社内体制として、経営理念をはじめコンプライアンスの徹底に係る行動指針・規程、アイフルグループハンドブック等の整備を図ると共に、相談窓口(ホットライン)の対応、社外委員を含むコンプライアンス委員会の設置による、コンプライアンスプログラムの策定・管理、内部管理態勢向上のための各種施策の検討・予防措置の実施に取り組んでいます。

また、これらの活動を強固なものにするべく、3ラインモデルを適用し、1線の事業部門による自己点検(自店検査)に加え、事業部門へのコンプライアンス推進室の設置によるオンサイトモニタリング、2線としてコンプライアンス統括部門であるリスク統括部による啓発・教育/フォローなどの内部統制、3線として、独立的な立場の内部監査部により、グループ・海外を含む内部監査を行い、適切性・有効性を評価し是正措置を講じています。

●内部監査について

内部監査部は、当社グループを取り巻く外部環境やグループ会社ごとの業態、各部署の業務実態を踏まえたリスクアセスメントを行い、高リスク領域の業務プロセスにかかる整備状況や運用状況の検証、営業支店やコンタクトセンターのみならず、本部やグループ会社に対する定期監査や、部署をまたいだテーマ監査を実施しています。コンプライアンスの徹底に向けて下記の法令順守への取り組み状況を監査しております。

- | | | | |
|---------|-----------|---------|--------------|
| ・ 貸金業法 | ・ 個人情報保護法 | ・ 割賦販売法 | ・ 労働基準法 |
| ・ 資金決済法 | ・ 消防法 | ・ サービス法 | ・ 犯罪収益移転防止 等 |

また、上記内部監査に加え、半期に一度自己点検(自店検査)により、貸金業法や当社で定める個人情報の保護に関する規程、委託に関する規程、反社会的勢力による被害防止に関する規程等の遵守状況を項目に定め、全社員が自部署の業務を検査しております。

反社会的勢力への対応

当社では、反社会的勢力に対する基本方針に基づき「反社会的勢力との関係の遮断」、「専門機関との連携」、「不当要求に対する毅然とした対応」などに取り組んでいます。また、マネー・ロンダリングおよびテロ資金供与への対策として、FATF(Financial Action Task Force(金融活動作業部会))などの国際機関、法令、監督当局などの要請に基づき、KYC(Know Your Customer(顧客確認))などへの取り組みを進めています。

役員一覧

取締役

代表取締役社長
福田 光秀 Mitsuhide Fukuda

代表取締役会長
福田 吉孝 Yoshitaka Fukuda

監査等委員である取締役

取締役（社外）
志村 仁 Hitoshi Shimura

取締役
大川 馨一郎 Keiichiro Okawa

執行役員

社長執行役員
福田 光秀 Mitsuhide Fukuda
リスク管理委員会委員長
兼 内部監査部統括
（ライフカード株式会社 代表取締役会長）

専務執行役員
佐藤 正之 Masayuki Sato

営業本部長 兼 管理本部長
兼 データアナリティクス部統括

専務執行役員
神代 顕彰 Akira Kamiyo

コンプライアンス委員会委員長 兼 経営企画本部長
兼 人事部・グループコミュニケーション部・
法務部・リスク統括部・審査部統括

専務執行役員
増井 啓司 Keiji Masui
保証事業本部長 兼 法人営業推進部・
東日本営業部・西日本営業部統括
（ライフカード株式会社 代表取締役 社長執行役員）

専務執行役員
廣瀬 文彦 Fumihiko Hirose
財務本部長

常務執行役員
奥山 真一郎 Shinichiro Okuyama
データアナリティクス部担当
兼 グループシステム本部付シニアアドバイザー

代表取締役
佐藤 正之 Masayuki Sato

取締役
神代 顕彰 Akira Kamiyo

取締役（社外）
鈴木 治一 Haruichi Suzuki

取締役（社外）
前田 真一郎 Shinichiro Maeda

常務執行役員
津田 和彦 Kazuhiko Tsuda
経理部統括

常務執行役員
須田 淳 Atsushi Suda
総務部統括 兼 保証事業副本部長
兼 リスク統括部担当

常務執行役員
仲田 貴之 Takayuki Nakata
グループシステム本部長

常務執行役員
堂本 顕孝 Akitaka Domoto
海外事業部統括 兼 経営戦略部・法人管理部担当

常務執行役員
安藤 俊明 Toshiaki Ando
財務副本部長 兼 経理部管掌 兼 経営計画部担当

常務執行役員
深田 裕司 Yuji Fukada
（AGビジネスサポート株式会社 代表取締役社長
兼 AGメディカル株式会社 代表取締役社長）

常務執行役員
山内 郁雄 Ikuo Yamauchi
人事部・グループコミュニケーション部担当
（AG キャピタル株式会社 代表取締役社長）

2024 年 7 月 1 日付

取締役
増井 啓司 Keiji Masui

常務執行役員
吾妻 弘 Hiroshi Azuma
営業副本部長

常務執行役員
橋本 裕彦 Yasuhiko Hashimoto
（PT.REKSA Finance 取締役）

執行役員
新妻 純一 Junichi Niizuma
内部監査部・法務部担当 兼 法務部長

執行役員
山田 悦司 Etsushi Yamada
管理副本部長
（AG債権回収株式会社 代表取締役社長）

執行役員
藤井 由大 Yorihiro Fujii
法人営業推進部・東日本営業部・西日本営業部担当
（AGペイメントサービス株式会社 代表取締役社長）

執行役員
山口 一郎 Ichiro Yamaguchi
グループシステム副本部長

執行役員
三石 潤 Jun Mitsuishi
経営企画部担当 兼 経営企画部長

財務報告

Report